

クリッピング後の破裂脳動脈瘤の早期再発例に対する再治療

美原記念病院脳神経外科 志藤里香 赤路和則 望月洋一 谷崎義生
美原記念病院神経内科 木村浩晃 美原盤
美原記念病院脳卒中部門 神澤孝夫

破裂前交通動脈瘤に対する開頭動脈瘤クリッピング術後、1か月後に再発し、再クリッピングを要した1例を経験した。

症例は47歳女性。突然の激しい頭痛のあと意識障害が出現し当院へ救急搬送された。3DCT-Aにて最大径5mm大、上向きの前交通動脈瘤があり出血源と診断した。発症当日に開頭動脈瘤クリッピング術を施行し、術翌日の3DCT-Aでは動脈瘤の描出は認めなかったが術後2週間目にフォローアップ目的で施行した3DCT-Aにてクリップ後の動脈瘤の近位部に拡張が疑われ、クリップした動脈瘤の基部から新規の小動脈瘤が出現したと診断し、再度開頭クリッピング術を追加し経過は良好であった。破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術後の再出血率は術後10年間で3%程度とされ、早期再発例の報告は少ないながらも見受けられ、再発に留意した頻回の経過観察が再出血のリスクを軽減できると考えられた。